

# 皮膚筋炎・多発筋炎の針筋電図所見に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

**研究期間：2019年10月24日～2022年12月31日**

**〔研究課題〕** 皮膚筋炎・多発筋炎の針筋電図所見に関する後ろ向き研究

**〔研究目的〕** 皮膚筋炎、多発筋炎は全身の筋に炎症が起こることで四肢の筋力が低下し、時には嚥下障害から食事摂取困難や呼吸筋障害から呼吸器装着となることもある難病です。その診断には採血検査、画像検査などが用いられますが、最も重要な検査とされているのが針筋電図であります。針筋電図検査に関する臨床研究は過去にいくつかありますが、どの筋肉で最も異常が出やすいのか、どのような病型でどのような異常が出やすいのかということが詳細に調べられたものは多くはありません。我々は、これまでに多くの皮膚筋炎・多発筋炎症例を経験してきており、その臨床像と針筋電図検査所見の特徴を後ろ向きに解析し、皮膚筋炎・多発筋炎の早期診断、正確な病型診断に役立つ針筋電図所見の特徴を明らかにすることを目的とします。

**〔研究意義〕** 皮膚筋炎・多発筋炎の針筋電図検査所見の特徴を明らかにすることは、早期診断、正確な病型診断を可能とし早期の治療開始、適切な治療選択に結び付き意義が大きいと考えます。

**〔対象・研究方法〕** 2009年7月～2018年12月の期間、当院で針筋電図検査が行われた患者さんの臨床情報を後ろ向きに検討し、エントリー基準を設けて皮膚筋炎・多発筋炎の患者さんを抽出します。それらの症例の種々の臨床特徴と、針筋電図所見を検討します。

**〔研究機関名〕** 帝京大学医学部附属病院神経内科

**〔個人情報の取り扱い〕** 収集したデータは、個人毎に匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）事務局にて保管されます。TARCによる保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・主任教授 園生雅弘

研究分担者：帝京大学医学部神経内科・助教 北國圭一

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科 (03-3964-1211) 〔内線 7350〕